

シリーズ

# 開帳の思い出

十才の頃でした。映画館へ行くにも西大寺まで自転車

朝日寺本尊の薬師如来(瀬戸内市文化財)の33年に一度の御開帳が三年後の平成二十六年に迫ってまいりました。それに向けて朝日寺だよりでは「開帳の思い出」として前回の開帳をよく知る方に、思い出話や次の開帳への思いを語って頂いてお

ります。三回目の今回は、地元庄田で生まれ育ち、前々回の御開帳をも経験され、また長年御詠歌隊の一員としてもよく朝日寺を熟知されておられます。胤草小夜子さんに執筆頂きました。

## 随想

庄田東 胤草小夜子

私は過去二回の開帳に参加させて頂きおられます。

最初の一回目の昭和二十三年、約六十年前です。記憶は大分薄れて参りましたが、思い出しながら浮かんで来たことを書かせて頂きます。

第二次世界大戦が終わり、世の中がやっと少しずつ落ち着いてきた時代でした。私は女学校を卒業して二



前回の開帳(昭和56年)

代です。ちょうどその年に開帳が行なわれ、朝日寺の先々代(隆如住職)様より、「午前中のお寺の行事が終わった午後より賑やかに余興をしたいので、若い方でしてもらえないか。」と言われ、それではと云って皆で相談したのです。その頃はどの娯楽もないので各地で青年が演芸会をしておりました。庄田地区も他地区と同じく男女を問わず、皆何か芸を楽しんでおりました。庄田には大変踊りの上手な先生がおられました。今は火事で焼失された土地だけが残っておりますが、武久充利さんと云われお店をしておられ、奥様も芸事が好きでよく三味線を弾いておられました。その先生にお願いして、夜ともなれば二階へ上り、色々各自に踊りを決めて教えて頂きました。その時代は股旅物の大流行で、赤城の子守唄、大戸根月夜妻恋道中などの時代物でした。妻恋道中は男の方と女の方で踊られ、大変喝采を浴びたものでした。私も赤城の子守唄を男装して踊ったのを覚えております。何も娯楽がなかった時代でしたので、夜が来るのが楽しみでした。今思えば武久のおじさんは皆それぞれに沢山の踊りを教えたものだなあと感心しております。「好きこそ物の上手なり」という言葉があります。が、正にそうだったんだと思われました。いよいよ開帳当日、朝日寺の今の客殿の南へ隠居屋と言われた古い建物があり、その部屋を舞台に見物する一般の方は外でゴザを引き見物したものでした。大変賑やかに余興が行なわれたのを思い出します。

二回目にご開帳に参加させて頂いたのは昭和五十六年の春でした。一回目には皆若かった人が五十歳を過ぎていいおばさんになっておりました。その前の年に今の太田様が「一般で言えば歌ですが、仏教には御詠歌という弘法大師に捧げる大変ありがたい歌があり、皆さんに習って来たいので、一度聞きに来られては。」とお誘いがあり、行ってみると居間は一杯で入れない位、私より皆上手な方ばかりで一番若くて上り口で腰を掛けて聞かせて頂きました。その時の先生が東壽院(牛窓町千手)の津守先生でした。聞かせて頂いているうちにありがたい気持ちになったのを覚えております。それで皆さんと一緒に御詠歌の道に入らせて頂きました。朝日寺の御詠歌の始まりです。初めて習ったのが「楊柳(ようりゅう)」という御詠歌で「天が下(あめがした)」「照らさぬ隈も なかりけり」という歌詞でした。覚えるのに時間さえあれば「天が下 天が下」と口癖のように一生懸命練習しました。また太田様が「宗教舞踊と云って御詠歌の踊りがあるので舞踊にも挑戦してみてもは。」と言われ、舞踊の道にも入らせて頂きました。岡山より小山先生という立派な先生が教えに来られ、私の孫も5、6歳だったと思いますが、小さな子供が手甲姿で「地藏菩薩」を躍らせて頂き、一生懸命踊っているのを見て感動したので覚えております。それから小山先生から「余興に面白い踊りを教えてあげるから皆さんを笑わせてあげたら。」と言われ、宗教舞踊とは別に教えて頂いたのが「ヤットン節」でした。「酒を持って来い」という男役のひょっとこ、おかめの面をつけ、一升瓶を持って女役二人、三人一組で計六人で踊ると大変な人気でした。敬老会にも何度か出させて頂きました。こうして当日御詠歌と舞踊が無事奉納され、何とも言えない充実感に満たされたのが思い出されます。

振り返ってみれば御詠歌の道入門して早30年の月日が経ちました。途中四年ほど休みましたが、習えば習うほど奥が深く難しく中々上手にはお唱え出来ませんが、頑張っております。最初からの方は故人となられたり、他県へ行かれたりして今では五人になりましたが、若い方が入ってこられて約二十名の方が月二回お稽古に励んでおられます。心の糧として、また声を出し頭を使い、体のためには大変良いと思っております。ご開帳のことは異なりますが私事、昨年一寸したことで足を踏み外して腰の骨を折り、病院生活をしました。今まではお陰様で、お医者さんにかかったことはなかったのですが、八十歳を過ぎての思いがけない病院生活を二ヶ月しました。始めの二週間は全然体を動かすことが出来ず、何もかも看護士さんにしてもらい、長い日々でした。二週間が過ぎて少し動ける様になり、日課として毎朝目が覚めるとお大師様をお願いして般若心経をお唱えし、また習った御詠歌を心の中で口ずさんで、時の経つのを過ごしておりました。大分良くなって家族の人に頼んで和讃集の教本を持って来てもらい、リハビリの合間に一ページずつお唱えすることにしました。習っていないものは譜が付いているので、まかりなりにもお唱えさせて頂き、退院まで一冊を唱え終わりました。いよいよ退院の日時が決まる日、先生が言われたことは「今までいろいろな方を受け持ってきたが、貴方のように八十歳を過ぎて二ヶ月やそこらで退院する人は初めてだ」と。驚いておられました。私は日常割と元気で体を鍛えておりましたが、お大師様のお加護の賜物と信じております。これからも体の続く限り、声の出る限り一生懸命修行して参りたいと思っております。

私としては平成二十六年の御開帳は人生三回目ですので、それまで体に留意して御詠歌がお唱え出来たらと念じております。拙い思い出ですが、頭に浮かんで来たことを雑然と書かせて頂きました。

## 霊園・永代供養塔について

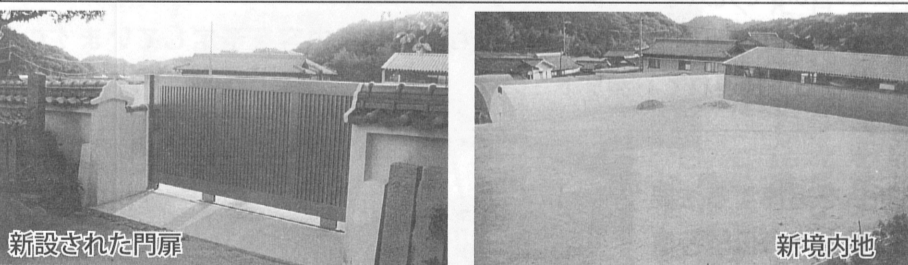
「朝日寺やすらぎ霊園」は一期分譲分が残り十区画となっております。永代使用料は一㎡六八〇〇〇円、管理料は八〇〇円です。昨年より檀家外の方にも当霊園を購入頂けるようになりました。(ただし、永代使用料が一㎡七四〇〇〇円です。)墓地をお考えの方はお気軽にご相談下さい。

また朝日寺墓苑には、お墓を管理する人がいない方やお墓の管理が困難な方のために朝日寺が責任を持って供養する永代供養塔があります。納骨料は朝日寺の檀信徒であるなしに関わらず、一霊二十五万円と墓碑書込み料三万円です。また、同時に複数霊納骨される場合や既にお骨



がなくなっている場合等については個別に相談に応じます。永代供養をお考えの方はお気軽にご相談下さい。

## 平成22年分 寄付金会計のご報告



薬師如来開帳へむけて、5ヵ年計画でお願いしていますご寄付でございますが、4年目となりました昨年末現在の会計は以下の通りとなっております。厚くお礼申し上げます。引き続きのご協力を伏してお願致します。

平成 21 年の残高		1,122,353 円
22 年 収入 の 部	寄 付 金	1,971,240 円
	利 息	472 円
22 年 支出 の 部	本堂西側境内地の整備	238,350 円
	門 扉	724,689 円
	郵 送 費 等	33,930 円

平成 22 年は別会計より工面している駐車場建設費の一部に充て、その残りと翌 23 年分を開帳行事の開帳資金に充てる計画でございます。ご協力お願い申し上げます。※なお、詳しい会計報告は一連の事業が終わってからご協力頂いた方々にお知らせ致します。